

志とは「なりたい自分」があること そして それに向かうこと

校長 長谷川 博

川辺小は、「国語力は学校力」と標榜しております。国語＝日本語は、すばらしい言語です。似て非なる言葉が数多く存在し、微妙なニュアンスを伝えられます。例えば、「たしなみ」「心得」「常識」は、同じような意味を有していますが、全く同じということではありません。「女性のたしなみ」とは言うものの「女性の常識」とは、あまり言いません。「書道の心得」とは言いますが、「書道の常識」とは、あまり言いません。女性や書道に常識があったとしても、それは、たしなみや心得とは少し違ったものだと思います。しかし、これらの3つの言葉は、いずれも「身につけている知識や技」という意味を持っています。

同様に「夢」「希望」「志」という言葉があります。進級・入学の時期に多用される前向きな用語です。いずれも未来を見据えた言葉です。そして、いずれも「持つ」「かなう」という言葉とつながります。一方で、「夢に向かって」あるいは「希望に向かって」と言いますが、「志に向かって」は、あまり聞きません。なぜでしょうか。それが日本語の持つ微妙なニュアンスの違いです。

「夢」「希望」を語る時、そこには自分がなりたい姿や状況があります。「僕には空を飛ぶ夢がある」「私は優しい人になりたい希望がある」「僕はサッカー選手になる希望がある」「私はパティシエになる夢を持っている」などです。そのとき、子どもの頭に浮かぶ姿や状態は、たいていモデリングされたもので、例えば「優しい人」ならばナイチンゲールであり、サッカー選手ならば長友佑都であり、それぞれの顔や姿が未来の自分と重なっています。まさに子どもらしい夢、子どもならではの希望です。

ただ、そこにとどまっているだけでは、夢や希望は実現しません。私は、夢や希望を志に進化する営みが大切だと考えています。「志に向かって」と言わないのは、志の中に「向かう」という意味が含まれているからです。夢や希望は「自分がなりたいもの」であり、志は「なりたい自分」だからではないでしょうか。志を抱いた人の脳裏には、ナイチンゲールや長友佑都の顔は出てこないで、自分が他の人に優しさをあふれさせたり、自分が名門チームでサッカーをしたりする姿が描かれているのです。それが「なりたい自分」です。そして、そこに至るまでに自分は、これから何をすべきか理解し、一步一步「なりたい自分」になるための努力を具体的に積み重ねていくのです。「優しい自分」を志するのであれば、周りの人に笑顔で接し、心静かにすべきことを行う自分を磨いていこうとか、「サッカー選手の自分」を志するのであれば、朝マラソンや縄跳びで体力をつけ、バランスのよい食事と規則正しい生活で強い身体づくりをしようとか、今の自分にできること、その次の段階の自分にできることを実行し、「なりたい自分」に向かっていくのです。

まずは、夢や希望を持つことです。小学生の今、一つに絞る必要はありません。たくさんの夢や希望があってもいいし、次々と夢や希望が変わっていてもかまいません。その中のどれかを「志」に進化させ、夢や希望がかなう日、志を果たした自分を迎えるのです。家庭と地域、そして学校が手を携えて、一人一人の子どもたちに「なりたい自分」を実現させましょう。